

# ご 挨拶

---

平成 30 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議

大会長 宇宿 功市郎

(熊本大学医学部附属病院 医療情報経営企画部長)

この度、平成 31 年 1 月 30 日（水）～2 月 1 日（金）、熊本市「メルパルク熊本」を会場として、平成 30 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議を開催することとなりました。本連絡会議は、国公私立大学病院等の情報マネジメント部門の全職種が、病院における情報の取扱いと電子化、院内外の情報を活用しての医療の効果的提供のあり方を広く議論する場となっています。毎年 1 回の開催で、今回は 35 回目となります。病院情報システムの発展の歴史とともにあると言っても過言ではなく、病院の教職員に加えて、情報関連企業の方々にとってもお互いの意見交換にとって重要となってきています。

平成 30（2018）年度は、「情報連携、マネジメントの基本に立ち帰る ～平時の連携で災害を乗り切る～」をテーマとして企画いたしました。2016 年 4 月の熊本地震から 3 年近くなり、新たな局面を目指しての活動が展開されています。災害への対応は日頃からの準備が最も重要ですが、全ての面で準備が上手くなされているかは疑問な点もあると思われまます。職種ごとの連携は出来ていても、多職種間での連携が不十分、組織を超えた連携や情報統括のための仕組みの機動的な立ち上げと運営が不十分、などの問題があるのではと考えます。部分がしっかりと機能しない場合には全体が動きません。ただ部分最適全体不適合とも言われますように、全体の統一的な動きにはそれなりの工夫も必要と考えられます。医療介護分野におきましては益々の機能分化、地域完結での医療介護提供が求められており、情報取扱いの面からの支援が強く期待されています。ICT 活用による各種業務の効率化、連携強化が叫ばれますが、医療介護提供の即時性の面などから、必要な医療介護を、必要とする人に、適時に届けるための技術開発、運用体制の確立が必要です。また、医療介護の情報は個人の機微に関わる内容が含まれており、これら情報の利活用には、必要な知識の習得、慎重な利活用が必須で、多くのガイドラインが示されています。医療介護に携わる個人個人の能力の向上とともに全体としての流れを多職種間で共有する必要性が求められている所以でもあります。今回の会議でも、病院情報システム、薬剤部門、検査部門、放射線部門、看護部門、事務部門、診療情報部門、臨床研究部門及び部長会セッションをはじめ、UMIN 関係の各種委員会を予定しています。「平時からの災害対応」とのテーマで、災害対策に関するテーマでの情報交換のセッションも企画しています。

会場の「メルパルク熊本」は、熊本市の中心に位置し、本会議への参加の他、観光にも最適の場所となっています。ぜひ多くの方々に熊本の地にお出でいただき、本会議を盛り上げていただくとともに、熊本の文化に触れていただければと存じます。ご参加の皆様にとって有意義な会議となるよう全力で進めて参りますので、是非ご参加いただきますよう、謹んでお願い申し上げます。

平成 31 年 1 月吉日

# 目 次

---

ご挨拶	1
当日のご案内	3
交通・会場案内	7
日程表	8
プログラム	
開会式	12
基調講演	12
セッション	
A-1 病院情報システム A	12
A-2 病院情報システム B	13
A-3 病院マネジメント（事務）	14
B-1 情報提供 A	15
B-2 情報提供 B	15
C-1 診察情報管理	16
C-2 放射線・医用画像管理	17
C-3 臨床研究・治験	18
C-4 地域連携	19
C-5 情報提供 C	20
D-1 看護	21
D-2 歯科	22
D-3 薬剤	22
D-4 検査	23
ランチオンセミナー	25
スイーツセミナー	28
総会・閉会式	29
各種委員会	29
ポスター発表一覧	30
協賛／協力企業・団体	39

# 当日のご案内

## 【参加者の皆様方へ】

### 1. 受付について

#### 1-1. 事前参加登録（顔認証あり）

受付は1F「受付（顔認証あり）」にございます。

事前に参加証を郵送しておりますので、必ずご持参ください。

1F受付にてプログラム集とネームホルダーをお渡しいたします。

#### 1-2. 事前参加登録（顔認証なし）

受付は2F「受付（顔認証なし）」にございます。

事前にプログラム集引換券を郵送しておりますので、必ずご持参ください。

印刷されている番号が必要です。

受付にてプログラム集と参加証、ネームホルダーをお渡しいたします。

#### 1-3. 当日参加登録

会場2Fに「当日受付」を設置しております。当日参加登録される方は、参加申込書に必要事項を記入し、参加費を添えてご提出ください。参加証とプログラム集をお渡しいたします。

#### 1-4. 受付時間

1月31日（木）8：00～17：00

2月1日（金）8：30～10：00

#### 1-5. 抄録プリントサービス

会場4Fにて「抄録プリントサービス」を設置しております。

大会 HP プログラム・抄録ページ  
<http://higo-uhim2019.umin.jp/program.html>

### 2. 参加証について

会期中、各会場に入場（聴講）される場合は、必ず参加証が確認できるよう携行ください。

### 3. ランチョンセミナーおよびスイーツセミナー整理券について

ランチョンセミナー整理券は、下記の時間より4Fロビー付近にて配布します。

1月31日（木）8：00～ ※無くなり次第終了

スイーツセミナー整理券は、下記の時間より1F受付（顔認証あり）付近にて配布します。

1月31日（木）8：00～ ※無くなり次第終了

### 4. 情報交換会について

情報交換会を、1月31日（木）18：00より3FA会場「中岳」にて開催します。

#### 4-1. 事前参加登録されている方

情報交換会シールが添付されている参加証を付けて、情報交換会場に直接お越しください。

#### 4-2. 当日参加登録される方

当日参加登録される方は、前述の「当日受付」にて情報交換会費をお支払いください。

## 5. その他

### 5-1. クローク

1階ロビーにあるホテル常設クロークをご利用ください。

お預かり時間：1月31日（木）8：00～20：30

2月1日（金）8：30～12：30

### 5-2. 駐車場

大会専用駐車場は用意していません。会場施設または近隣の有料駐車場をご利用ください。

### 5-3. インターネット接続

大会提供の専用 Wi-Fi を無料で利用できます。SSID 等は当日お知らせします。

接続可能エリア：2～4 F フロア会場内

### 5-4. 医療情報技師ポイント

本会参加で、日本医療情報学会 医療情報技師更新制度 1 単位を取得できます。

ご希望の方は、2 F 総合案内へお申し出ください。

### 5-5. 大会本部

会期中、2 F 「鈴」に大会本部を設置します。

## 【座長・演者の皆様へ】

### 1. 座長・演者受付について

「座長・演者受付」を2 F ロビーに設置いたします。参加登録の後、発表するセッションの30分前までに、必ず座長・演者受付をお済ませください。

### 2. 発表方法について

#### 2-1. 発表形式：

- ・PCでの発表のみとします。演者の方は、発表データをUSBメモリに保存しご持参ください。PC持ち込みの方は、ご自身のPC（ミニD-Sub15ピン接続可能機種）を持参してください。ACアダプターも必ず持参してください。
- ・発表機材はPCプレゼンテーション（1面映写）のみといたします。
- ・音声出力やLAN接続による発表はできません。
- ・スライドの枚数に制限はありませんが、発表時間は厳守してください。

#### 2-2. 事前試写チェック

- ・演者の方は、3 F フロア近くにある「PC受付」にて、必ず外部出力チェックをしてください。
- ・プロジェクター対応解像度はXGA（1024×768ピクセル）ですので、ワイド画面PCの方はあらかじめ設定をXGAにしてください。

#### 2-3. 進行方法：

- ・座長の方は、担当セッションの10分前までに、各会場内右前方の次座長席にて待機してください。
- ・演者の方は、発表するセッションの10分前までに、各会場内左前方の次演者席にて待機してください。PC持ち込みの方は、オペレーター席へPCをお持ちください。PCのスクリーンセーバー、省電力設定は解除しておいてください。
- ・座長の方は、開始の合図が入り次第、登壇しセッションを開始してください。
- ・演者の方は、発表の順番になりましたら登壇し、座長の指示に従って発表してください。

## 【ポスター発表の皆様へ】

### 1. 掲示場所について

ポスター会場

P1-1 ~ P4-4 (2F 立田)

P4-5 ~ P9-1 (4F ロビー)

### 2. 掲示・立会い時間について

掲 示：1月31日(木) 9:00 ~ 16:00

2月 1日(金) 9:00 ~ 11:00

立会い：1月31日(木) 16:00 ~ 17:30のうち15分 発表者ごと時間設定(1時間30分)

※各自ポスターパネルに立会い時間を掲示してください。用紙はポスター会場前に設置する「ポスター受付」にてお渡しいたします。

### 3. 貼付および撤去について

準 備：1月31日(木) 8:00 ~

撤 去：2月 1日(金) 11:30 ~ 12:30

※撤去時間内にポスターは必ず取り外してください。撤去時間後に掲示されているポスターは大会事務局にて廃棄します。

### 4. ポスター作製について

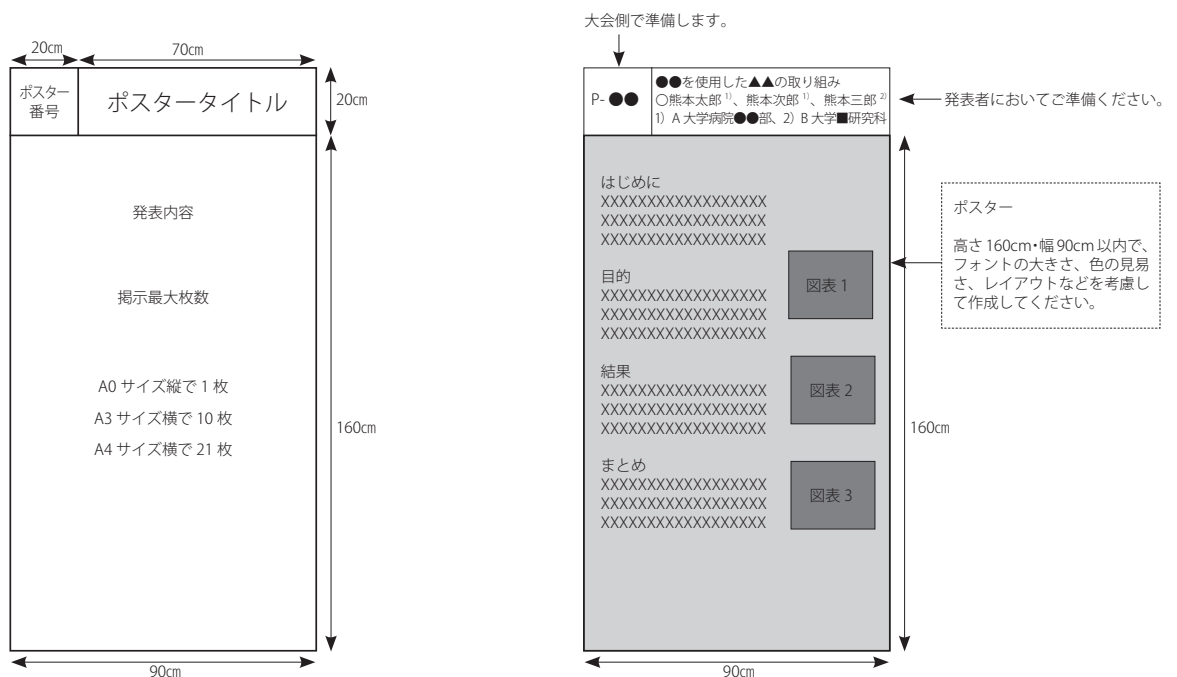
#### 4-1. ポスターサイズ

・ポスターサイズは、高さ160cm・幅90cm以内で作成してください。

#### 4-2. ポスタータイトル

・ポスター番号(高さ20cm・幅20cm)は大会側で準備し、パネル左上部に事前に貼付します。

・ポスタータイトル(演題名・演者名(発表者に○印)・共同演者名・所属)は、発表者において高さ20cm・幅70cm以内で作成してください。



5. ポスター出力・現地持込みサービスについて

本大会では、富士ゼロックス熊本株式会社のご協力を得て、ポスターの無料出力サービスを提供いたします。このサービスの利用をご希望の方は、1月8日（火）までにポスターデータを下記の要領でお送りください。なお、出力サイズはA0サイズ（1189×841mm）のみとなりますので、出力サイズをご確認の上お送りいただきますようお願いいたします。出力したポスターは、大会側で貼付いたします。尚、ポスターの材質は上質紙のみとなりますのでご了承ください。

<ポスターデータ送付要領>

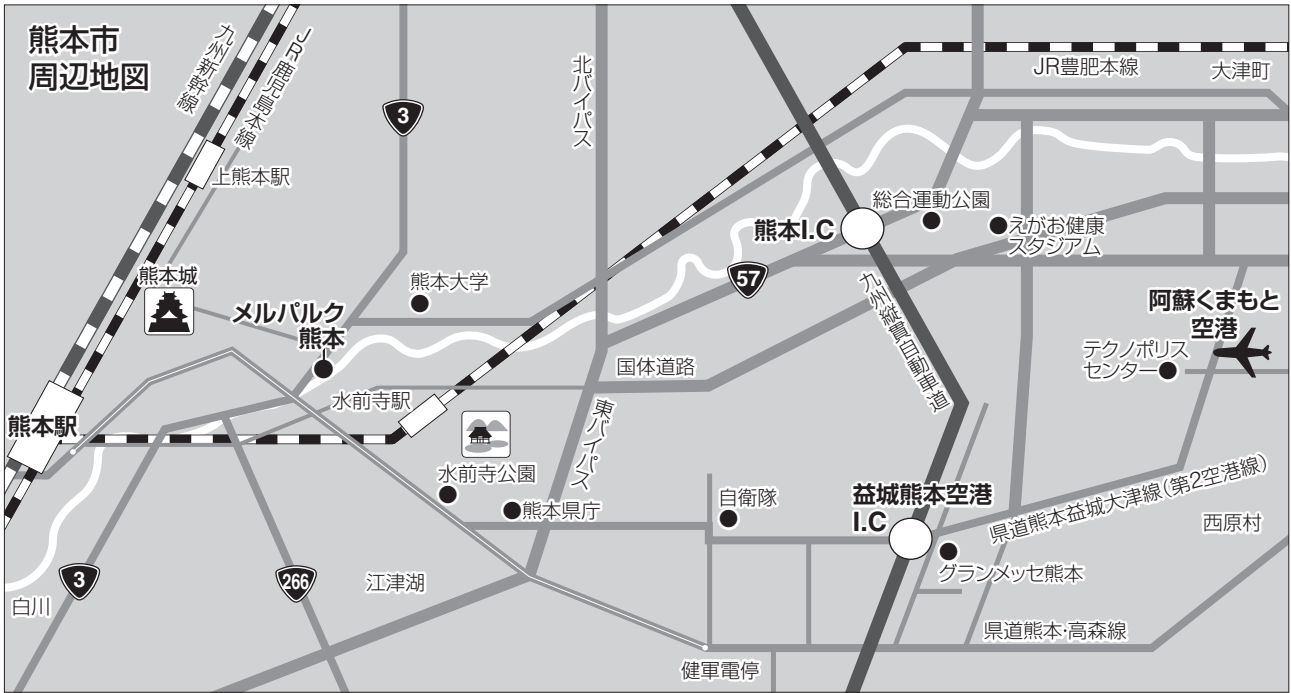
送付先：運営事務局

送付先 e-mail：uhim35th@higo.ne.jp

メール件名：ポスター出力サービス希望

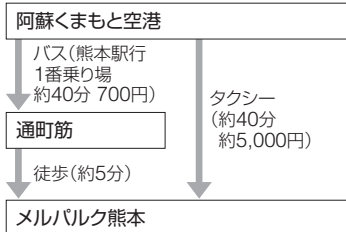
ファイル名：ポスター No. + 筆頭演者名（例：P-10\_熊本太郎）

# 交通・会場案内図

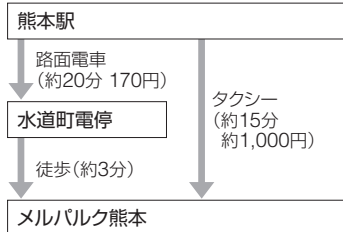


## <アクセス>

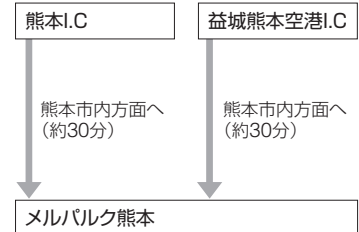
### ◆阿蘇くまもと空港(バス・タクシー)



### ◆熊本駅(熊本市電・タクシー)

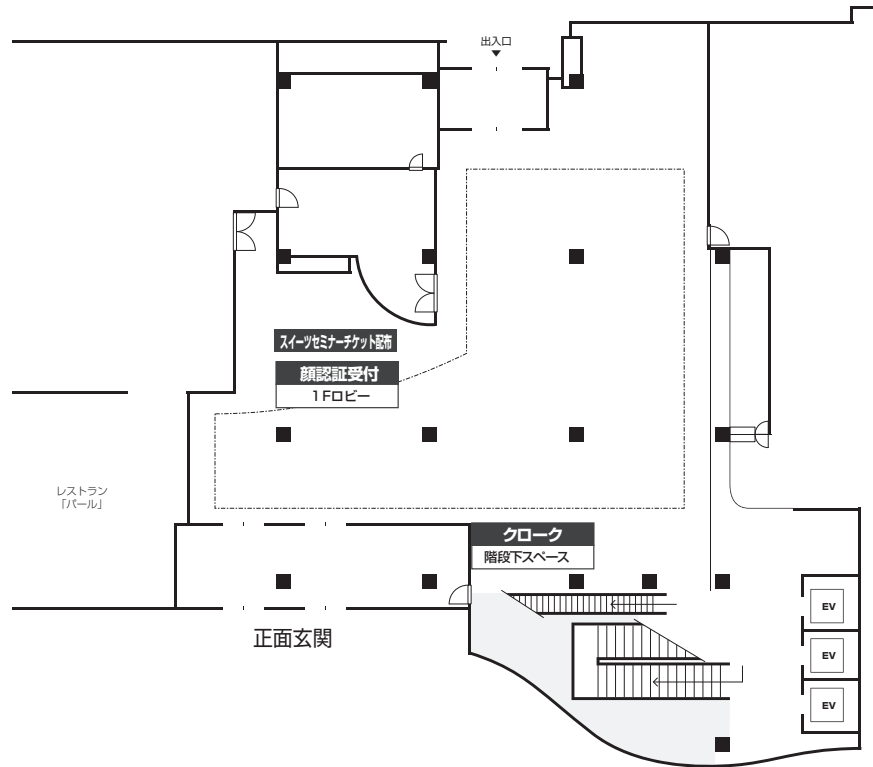


### ◆高速道路(自動車)

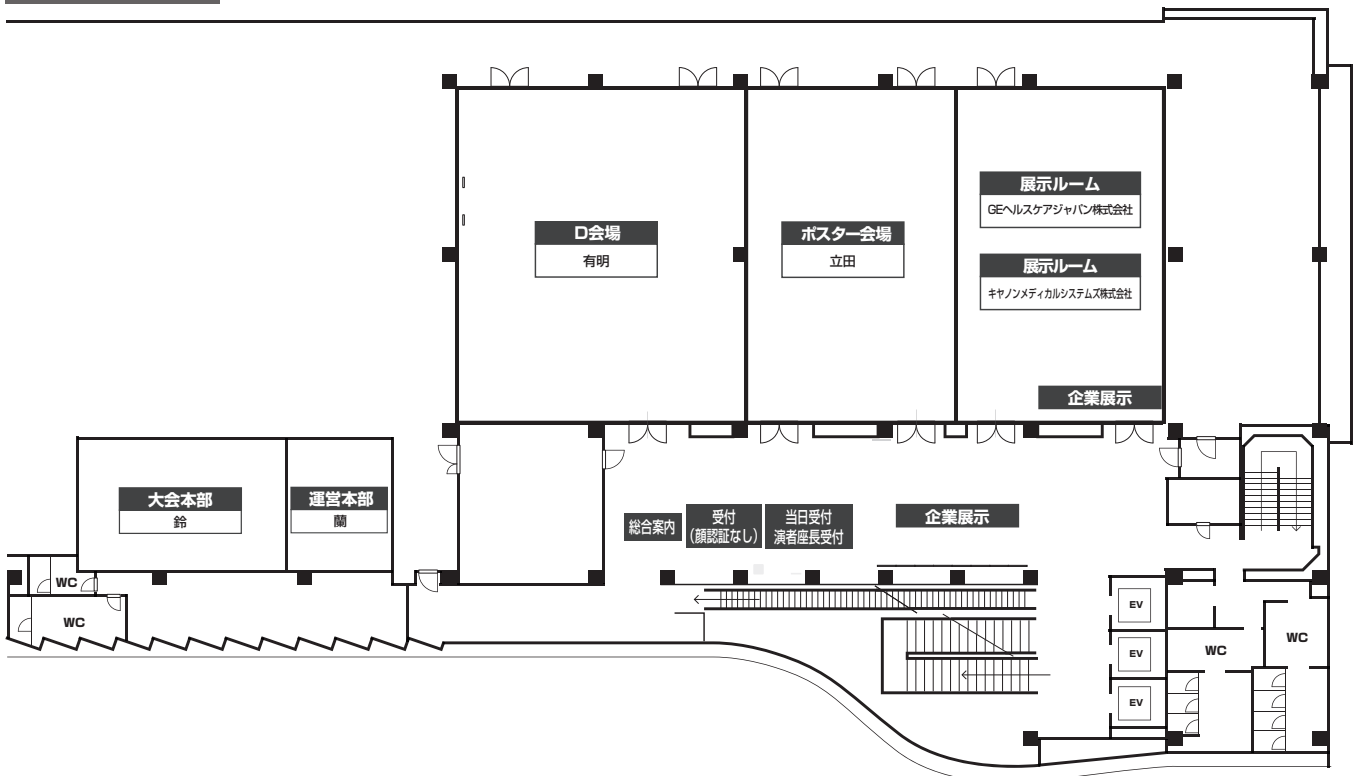


# メルパルク熊本

## 1F

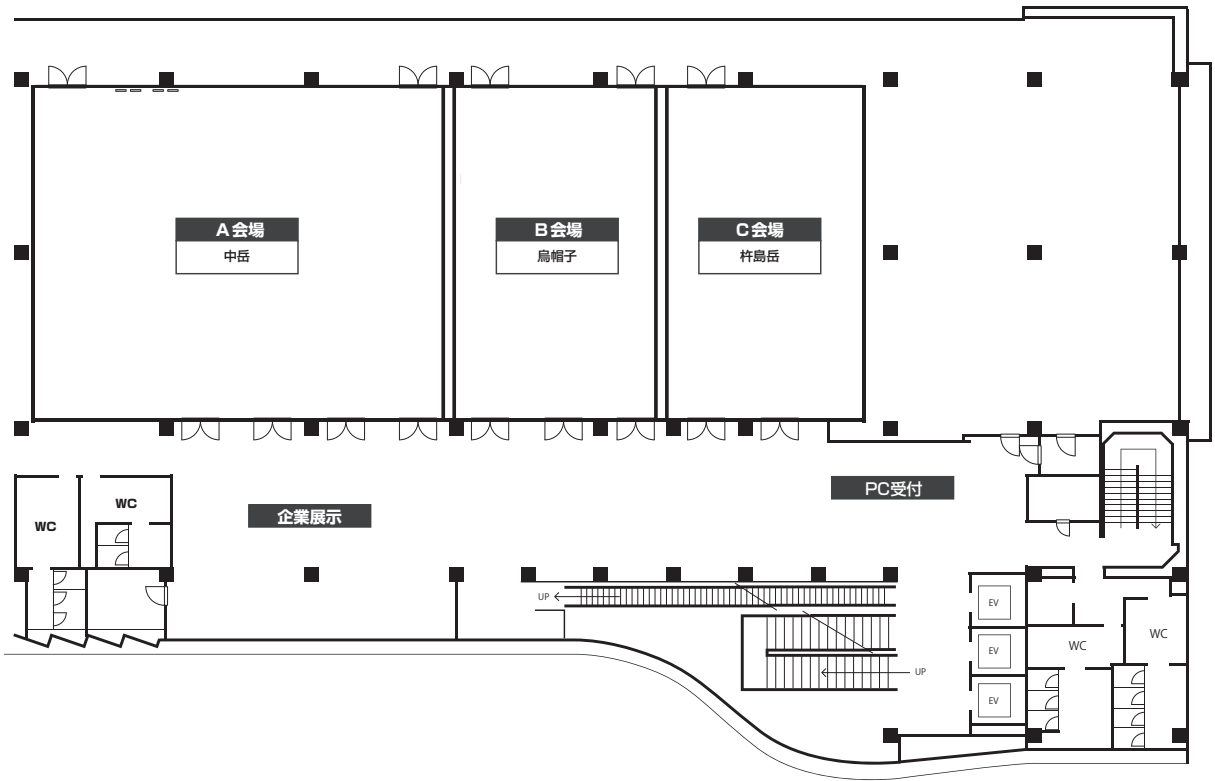


## 2F

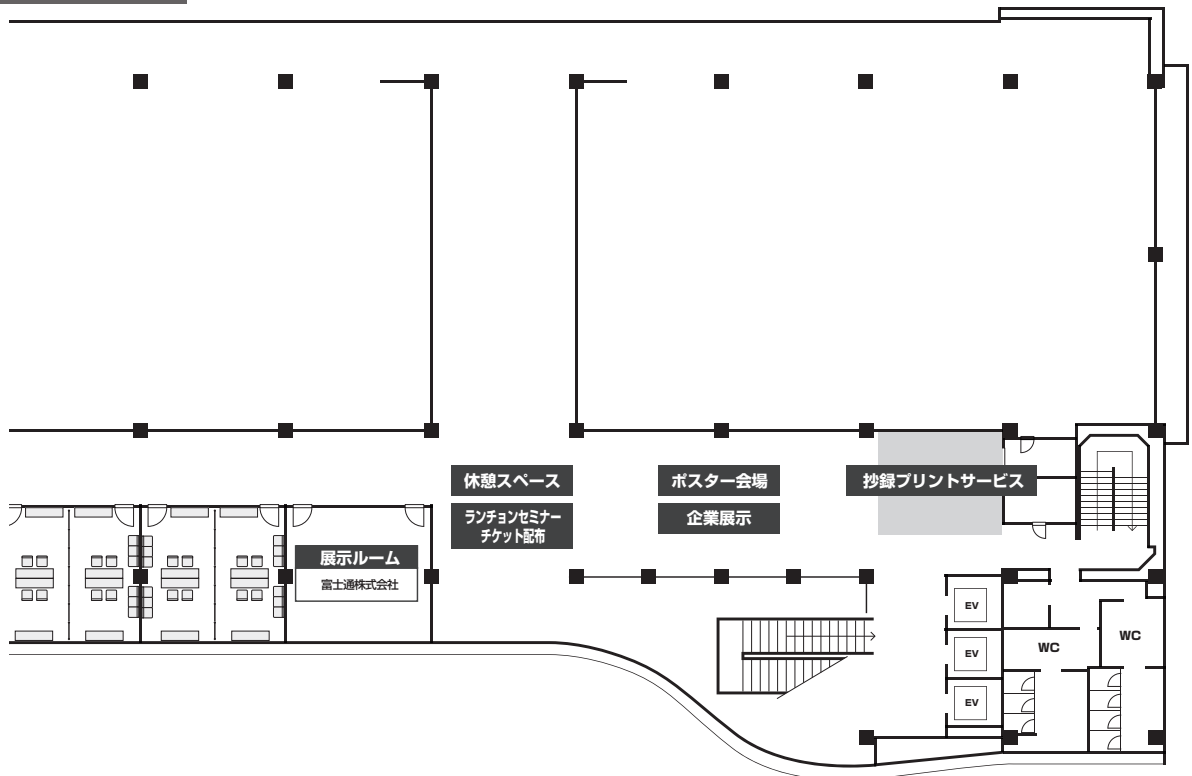




# 3F



# 4F



# 日程表

## ■ 1月30日 (水)

会場	部屋名	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
熊本県医療会館	6F							部長会幹事会		部長会			部長会懇親会 (城見橋)	

## ■ 1月31日 (木)

会場	部屋名	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
ホテルメ	3F		開会式	A-1 病院情報システム A 9:00 ~ 10:30	A-2 病院情報システム B 10:35 ~ 12:05	LS1 エプソン販売 (株) 12:20 ~ 13:20		A-3 病院マネジメント (事務) 13:35 ~ 16:00					情報交換会 18:00 ~ 20:00	
	3F	B会場 鳥帽子		UMIN 小委員会 事務 9:00 ~ 10:00	UMIN 小委員会 薬剤 10:05 ~ 11:05	診療情報管理士 連絡会 11:10 ~ 12:10	LS4 (株) ファインテックス 12:20 ~ 13:20	B-1 情報提供 A 13:35 ~ 15:05	スイーツセミナー (株) イードトル 15:15 ~ 16:10	B-2 情報提供 B 16:20 ~ 17:50				
ホテルメ	3F	C会場 杵島岳		C-1 診療情報管理 9:00 ~ 10:30	C-2 放射線・医用画像管理 10:35 ~ 12:05	LS3 (株) ダイコク・ システム・サービス 12:20 ~ 13:20	C-3 臨床研究・治験 13:35 ~ 15:05	C-4 地域連携 15:10 ~ 16:20	C-5 情報提供 C 16:25 ~ 17:50					
	2F 4F	ポスター会場 2F 立田 4F ロビー		ポスター掲示：9:00 ~ 16:00 立会い：16:00 ~ 17:30のうち15分間 発表者ごとに時間設定 (1時間 30分)										
熊本	2F	D会場 有明		D-1 看護 9:00 ~ 10:30	D-2 歯科 10:35 ~ 12:05	LS2 アラクサ ネットワークス (株) 12:20 ~ 13:20	D-3 薬剤 13:35 ~ 15:05	D-4 検査 15:10 ~ 16:40	UMIN 幹事会 / 協議会 16:45 ~ 17:45					
	2F	展示ルーム 金峰		展示ルーム (キャノンメディカルシステムズ (株)・GEヘルスケアジャパン (株))										
	4F	展示ルーム 松		展示ルーム (富士通 (株))										

## ■ 2月1日 (金)

会場	部屋名	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
ホテルメ	3F	A会場 阿蘇		基調講演 9:00 ~ 10:00	総会・閉会式 10:05 ~ 11:30	UMIN 協議会 11:30 ~ 12:00								
	2F	大会本部 鈴				運営委員会 12:00 ~ 13:00								
熊本	2F 4F	ポスター会場 2F 立田 4F ロビー		ポスター掲示										
	2F	展示ルーム 金峰		展示ルーム (キャノンメディカルシステムズ (株)・ GEヘルスケアジャパン (株))										
	4F	展示ルーム 松		展示ルーム (富士通 (株))										

# プログラム

---

## 開会式

---

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 8：45～9：00

会 場：A 会場（3F 中岳）

## 基調講演

---

### 大学病院を取り巻く諸課題

日 時：平成 31 年 2 月 1 日（金） 9：00～10：00

会 場：A 会場（3F 阿蘇）

座 長：深澤 博昭（熊本大学医学部附属病院 事務部長）

演 者：丸山 浩（文部科学省 高等教育局医学教育課 大学病院支援室長）

## セッション

---

### A-1 病院情報システム A

#### 旭川医大の事例から学ぶこと

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 9：00～10：30

会 場：A 会場（3F 中岳）

オーガナイザー兼座長：近藤 博史（鳥取大学医学部附属病院 医療情報部）

遠藤 晃（北海道大学医学部附属病院 医療情報企画部）

病院情報システムの活用による診療現場での業務の効率化が図られるようになって来ている。しかしながら医療の高度化、診療技術の進歩、加えて診療報酬改訂での診療内容の複雑化等の要因により、現場の要望が実現できていること、出来ていないことが数多く生じている。病院情報システムの更新はサーバー機器、情報端末の稼働年数に影響を受けて5～6年毎に行われる病院全体で取り組むべき一大行事となっている。このようななか、旭川医科大学では、あまり経験することのない状況が生じ、大変なご努力をされております。今回、この経験を是非とも共有し、病院情報システム更新においては、更新の担当者、病院教職員が何を考えて行くことが重要かについて議論を深めて行きたいと考えている。

#### 1. 「旭川医大病院でおきたこと」

廣川 博之（旭川医科大学病院 経営企画部）

#### 2. 「何が問題だったのか ー各部署の立場からー」

北山 勝隆（旭川医科大学病院事務部 経営企画課 医療情報係）

廣川 博之（旭川医科大学病院 経営企画部）

### 3. 「ベンダー変更できる入札（仕様書）を考える（競争入札の実現のために）」

近藤 博史（鳥取大学医学部附属病院 医療情報部）

## A-2 病院情報システムB

### 入力支援、診療支援は実現できているか

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 10：35～12：05

会 場：A 会場（3F 中岳）

オーガナイザー：紀ノ定保臣（岐阜大学医学部附属病院 医療情報部）

座 長：松村 泰志（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）

牛越 博昭（岐阜大学医学部附属病院 高次救命治療センター）

病院情報システムを使つての診療は、大学病院等の特定機能病院では今や日常診療において欠かすことができないものになっている。大学病院等では平均外来患者数は 1000 人を超え、入院患者数は 20 万人を超える状況となっている。この中で日常診療において蓄積される情報は大変なものになっている。これらの情報を活用し、診療の質の向上・医療安全のために活用することは、現時点では必須のこととなっていると思われる。このことが確実に行われているかは未だ判然としないことが多い。このセッションにおいては、どのように情報を蓄積し、どのように利用すればいいかということに参加者の皆様とともにディスカッションしていきたいと考えている。

#### 1. テンプレートを用いた記事入力支援と構造化データ取得

武田 理宏（大阪大学大学院医学系研究科 医療情報学）

#### 2. 消化器外科症例の入力支援ならびに薬剤関連有害事象予防の取り組み

猪飼 宏（山口大学 医療情報部）

#### 3. 入退院支援職員の負担軽減と入力支援

～「クリニカルフロー」による診療プロセス進捗状況の可視化～

森 龍太郎（岐阜大学医学部附属病院 医療情報部）

### A-3 病院マネジメント（事務）

#### 事務職員から提案する診療サポート

～多職種・組織の連携に基づく業務効率化を目指して～

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 13：35～16：00

会 場：A 会場（3F 中岳）

座 長：深澤 博昭（熊本大学医学部附属病院 事務部長）

地域医療構想や診療報酬改定への対応など、医療を取り巻く環境が大きく変化する中、各大学病院では、安定した病院経営の推進に向けた様々な取り組みがなされているところです。しかしながら、安定的な病院経営の実現には、多職種や組織の連携による協働・業務の移管等を通じて、効率化を図っていくことも重要です。これは、現在推進されている「働き方改革」による医療従事者の負担軽減にも資する取り組みであると言えます。よって本セッションでは、全国国立大学病院において、事務職員からの提案・発信をきっかけに多職種間での連携や組織の枠を超えた連携を経て「業務の効率化」や「経営改善」の成果が得られた事例や、特色のある取り組みについてご紹介いただきたいと思います。

#### 1. 職員総活躍病院の実現に向けて ～働き方ルネッサンス～

毛利 淳子（秋田大学医学系研究科・医学部 総務課）

#### 2. 患者総合支援センターの立ち上げから運用へ ～絵に描いた餅にならないように～

吉野 孝博（福井大学病院部）

#### 3. 両立支援に対する産業医科大学病院の取り組み

黒木 一雅（産業医科大学病院 医療支援課）

#### 4. 医療スタッフとの協働によるクリニカルパスの経済性検討と改善への取組

後藤 理香（熊本大学医学部附属病院 医事課 診療報酬指導室）

#### 5. 加算指導料算定チェック ～適切な請求に向けて 小児療養環境特別加算～

高松 大地（岐阜大学医学部附属病院 経営企画課経営分析係）

#### 6. HOMAS 2 を用いたクリニカルパス分析例

～∞活用効果は〇〇〇千円？いいえ無限大！∞～

三好 敏子（徳島大学病院 経営企画課経営企画係）

#### 7. HOMAS 2 を用いた国立大学病院材料費比較

～DPC14 桁別コードにおける材料費の比較分析～

香川 博秋（宮崎大学医学部附属病院）

## B-1 情報提供A

### 熊本地震から学んだこと

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 13：35～15：05

会 場：B会場（3F 烏帽子）

オーガナイザー：宇宿 功市郎（熊本大学医学部附属病院 医療情報経営企画部）

座 長：笠岡 俊志（熊本大学医学部附属病院救急・総合診療部）

熊本地震においては 様々な準備がされていたにも関わらず 十分に生かされた点と対応が不十分であった点があることはいくつかのことから報告されている。このセッションでは 阿蘇で様々なことに取り組まれた 内容を振り返り今後の準備として何を行っていけばよいかを 討論していきたい。そして皆さんとの共通認識を作り、万が一にも起きてほしくはないが、次の災害の対応策を練っておきたい。

#### 1. 熊本地震、その時阿蘇は！ ～熊本地震から学んだこと、伝えたいこと～

甲斐 豊（阿蘇医療センター院長）

#### 2. 熊本地震の経験に学ぶ

永田 壮一（医療法人 永田会理事長）

## B-2 情報提供B

### 大学病院として医療クランク等をどのように育成・養成すれば良いか？

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 16：20～17：50

会 場：B会場（3F 烏帽子）

オーガナイザー：小林 利彦（浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター）

島井 健一郎（千葉大学医学部附属病院 企画情報部）

座 長：宇都 由美子（鹿児島大学病院 医療情報部）

島井 健一郎（千葉大学医学部附属病院 企画情報部）

「医師の働き方改革」が求められている昨今、大学病院においても、医療クランク等の在り方や育成・養成等への関わり方が問われている。2008年の診療報酬改定で導入された「医師事務作業補助体制加算」は、2016年には特定機能病院でも算定できるようになり、その後、大学病院においても医師事務作業補助者の確保が盛んになった。しかし、当初から採用時の専門資格等は求められず、施設基準等に則った、採用後6ヶ月以上のOJTと32時間研修、そして算定要件でもある4業務が定められているのみであり、継続的な生涯教育やキャリアパス等の方向性は全く示されていない。

人口減少が進む現在、高度な医療を提供する大学病院として、医療クラーク等の量的確保だけでなく、質的担保や専門性の強化が求められている。本セッションでは、優秀な医療人材を地域に輩出すべき大学病院として、医療クラーク等をどのように雇用し、どのように育成・養成すれば良いのか？ また、個々の職員がモチベーション高く当該業務に集中するには、どのような環境を整備すべきか？について、情熱をもって取り組んでいる大学関係者からの意見を聴き、今後の大学病院事務部門としての関わり方の参考としたい。

1. チーム医療の一員として医師の事務的作業の軽減が病院経営にもたらす効果

宇都 由美子（鹿児島大学病院 医療情報部）

2. 当院における医師事務作業補助体制強化に向けた取り組み

～医師事務作業補助者の増員と雇用条件の弾力化～

三沼 仁（筑波大学附属病院 病院総務部）

小澤 裕美子（筑波大学附属病院 病院総務部 患者サービス課）

3. 医師事務作業補助者の育成と課題

渡辺 玲子（北海道大学病院 医事課）

4. 医師事務作業補助者の拡充・育成・配置と医師事務作業補助業務の増強

関 奈保美（千葉大学医学部附属病院 企画情報部）

## C-1 診療情報管理

### 非常時の診療記録の在り方について考える

日 時：平成31年1月31日（木） 9：00～10：30

会 場：C会場（3F 杵島岳）

オーガナイザー：西山 謙（九州大学）

座 長：野村 俊子（大分大学）

中筋 眞寿美（鹿児島大学）

日常の行為を記録に残すことは全ての職業において重要であると思われまます。診療においてもその記録を残すことは大変重要であり、診療記録記載の目的は多岐に渡っています。情報の共有、インフォームドコンセントと説明責任を果たすこと、医療安全への貢献、病院管理の資料、保険請求の根拠、法的正当性を証明する、さらには臨床研究の資料として保存するという極めて重要な役割が期待されています。このため診療録の管理に関しては特別な職種が設けられているところでもあります。近年日本列島においては大災害が起こることが多くなってきておりますが、大災害後においては 発災直後に多くの被災者が病院に集中することが予想されます。



この際に必要な診療情報が過去のものを含めて的確に得られることができれば診療が円滑に行われているものと想像されます。地震等の災害を経験して、診療録、診療情報の管理の重要性を再認識することができたこともあり、更にはさまざまな手段を使い情報の連携を行うにはどのようにしたらよいのか、現在どのような取り組みがあるのかを明らかにできればよいと考えています。

1. 熊本地震の経験から

小窪 滋子（熊本大学医学部附属病院 医事課中央病歴室）

2. 大阪府北部地震における体験談

正木 義朗（大阪医科大学附属病院）

3. 地震等の災害に医療救護活動で参加された方の体験談

～東日本大震災での医療救護活動において～

今泉 浩徳（名古屋市立大学病院）

4. 医療情報バックアップに関する院内体制の整備

～ The Gemini Project、独立型 SS-MIX2 データブラウザシステムを中心に～

藤井 歩美（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）

## C-2 放射線・医用画像管理

### 災害時における放射線部門の役割と課題

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 10：35～12：05

会 場：C会場（3F 杵島岳）

オーガナイザー：山下 康行（熊本大学医学部附属病院 画像診断・治療科）

池田 龍二（熊本大学医学部附属病院 中央放射線部）

座 長：山下 康行（熊本大学医学部附属病院 画像診断・治療科）

坂本 博（東北大学病院 診療技術部放射線部）

近年日本においては、台風、洪水、地震などの自然災害が増してきており、災害時の事業継続をどのように行うかが問題となってきた。とくに大学病院は地域の基幹病院であるため、災害時には重要な役割を果たすことが求められている。今回は、災害時における放射線部門の事業継続からフィルムレス運用とデータ管理の現状と課題までを俯瞰し、議論を深めたいと考えている。

1. 平成 28 年熊本地震における放射線科の役割  
～一総合病院放射線科の被災経験と、今後の課題～  
浦田 譲治（熊本市立熊本市市民病院）
2. 南海トラフ地震に備えた放射線部の準備と課題  
中野 智（名古屋大学医学部附属病院 医療技術部放射線部門）
3. 東日本大地震の経験からみる放射線部門の BCP 策定とシステム構築  
～ BCM 継続の重要性～  
坂本 博（東北大学病院 診療技術部放射線部門）
4. 医用画像の外部保存サービスにおける事業者としての BCP 強化に向けて  
大越 厚  
(GE ヘルスケア・ジャパン株式会社 ヘルスケアデジタル事業本部)

### C-3 臨床研究・治験

#### 大規模症例データベース事業における IT システム運用

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 13：35～15：05

会 場：C 会場（3F 杵島岳）

オーガナイザー：中島 直樹（九州大学 メディカルインフォメーションセンター）

座 長：荒木 栄一（熊本大学医学部附属病院 総合臨床研究部）

近年、RCT（ランダム化比較臨床試験）に代表される厳密に定義された臨床研究とは別に、実際の診療で発生するリアルワールドデータを活用する研究が増えてきている。この研究の多くは、多施設から臨床データを収集して症例データベースを構築する研究であり、現在、いくつもの全国規模の症例データベース事業の運用が開始されている。これらは、主に電子カルテシステムのデータを SS-MIX2 ストレージに格納し、そのなかから必要なデータを中央のデータセンターに送信するという流れである。本セッションでは、電子カルテシステムのデータを EDC システムや多施設症例データベースに送信するにあたり発生した課題を共有するとともに、今後進められていくデータ駆動型医学研究（事業）について紹介する。

1. 電子カルテシステムと連動した臨床研究支援システムの構築・運用の 1 事例  
榊田 光倫（熊本大学医学部附属病院 総合臨床研究部）
2. 大規模糖尿病（症例）データベース研究 J-DREAMS における  
当院臨床研究支援部門の支援事例  
山ノ内 祥訓（熊本大学医学部附属病院 総合臨床研究部）

### 3. SS-MIX2 を用いた複数施設からの循環器データ収集の仕組み：CLIDAS

興梠 貴英（自治医科大学 医療情報部）

### 4. データ駆動型医学研究の状況と今後の展開

～リアルワールドデータの参照から解析フェーズへ～

山下 貴範（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）

## C-4 地域連携

### これからの地域医療連携に必要なこと

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 15：10～16：20

会 場：C会場（3F 杵島岳）

オーガナイザー：宇宿 功市郎（熊本大学医学部附属病院 医療情報経営企画部）

座 長：野坂 生郷（熊本大学医学部附属病院 地域医療連携センター）

診療報酬の改定があり、地域での医療連携が必須となっている。地域医療連携においては、がん患者の緩和ケアとともに高齢者の自宅療養在宅での療養を支援することも必要となっている厚生労働省は入院前から入院後までの連携の支援と Advanced Care planning を大学病院等の地域連携室に求めており地域医療連携調整員の養成に力も入れるようになってきているこのセッションにおいては入院前から入院後にかけて地域医療連携を行う際に他職種連携がいかにあるべきかをディスカッションしそのための連携を支援する電子的な手段がどのようなものが必要とされるかを討論していきたい。

#### 1. 大学病院と地域多職種連携

～入退院支援と多職種連携基盤としての ICT ネットワークの現状と課題～

鈴木 一郎（新潟大学医歯学総合病院 患者総合サポートセンター）

#### 2. くまもとメディカルネットワーク構築と運営について ～構築の開始から現在まで～

宇宿 功市郎（熊本大学医学部附属病院 医療情報経営企画部）

#### 3. くまもとメディカルネットワークにおける情報共有シートを活用した多職種連携の試み

山澤 順一（国保水俣市立総合医療センター）

## C-5 情報提供 C

### 国立大学病院における「データにもとづく経営・政策」の現状と展望

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 16：25 ～ 17：50

会 場：C 会場（3F 杵島岳）

オーガナイザー兼座長：大坪 徹也

（東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター、  
京都大学医学部附属病院 医療情報企画部）

国立大学病院の運営において、利益率の低下や運営費交付金の通減などに対する財務体質の強化や地域医療構想・地域医療計画における各国立大学病院のあり方の明示といった様々な場面において、パフォーマンスを把握し、戦略的に意思決定することの重要性が高まっている。こうした意思決定を支援するにあたっては、データの利活用が有用な手段の一つとなる。

本セッションでは、データにもとづく病院経営・政策の重要性を再確認するとともに、国立大学病院間のベンチマークシステムおよびその活用事例を紹介し、同システムの今後の展望について扱う。各演者による講演後、様々なデータをいかに効果的に活用していくかについてフロアの意見も含めて議論したい。

1. 国立大学病院データベースセンターの保有するデータの利活用とデータ分析システムの概要について

星本 弘之（東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター）

2. A# を活用した経営と疾病の構造分析と特徴把握

小田桐 高（弘前大学医学部附属病院 経営企画課）

3. 後発医薬品分析による収益改善シミュレーション

～国立大学病院の収益増に向けて～

平岡 晃（東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター）

4. 国立大学病院における経営関連データの利活用をめぐる展望と課題

大坪 徹也（東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター、  
京都大学医学部附属病院 医療情報企画部）

## D-1 看護

### 災害に強いネットワーク ―今、本当に必要な連携―

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 9：00～10：30

会 場：D会場（2F 有明）

オーガナイザー：山本 治美（熊本大学医学部附属病院 看護部長）

座 長：白川 秀子（秋田大学医学部附属病院 看護部長）

地域包括ケアが要求されるようになり医療従事者、特に看護師に求められる役割は多岐に渡るものと考えられます。病院においても訪問看護を行う部署を準備し、退院支援などを行うことが珍しいことではなくなってきました。大学病院においても、様々な場面において地域との顔の見える連携は必要不可欠なことになっています。このような中、災害時には日常における地域の活動とは異なった対応、準備が必要になってくると考えられます。熊本地震では、備えていたネットワークが容易には機能しないことも経験しました。今回のセッションでは、各病院の災害時に向けた連携や取り組み、実際の災害での反省点などの経験を共有し、今後に繋がる議論が出来ればと思っています。ご参加の皆さまと活発な議論が出来ればと祈念しています。

1. 災害対策マニュアルを通して「災害への備え」を考える  
～災害拠点病院・原子力災害拠点病院としての役割～  
北村 佳代子（九州大学病院 看護部）
2. 「連携」から「共有」を目指した看護情報の基盤整備  
～未来のカルテ共有時代に備えて、自施設でできることから～  
鮎澤 ひとみ（千葉大学医学部附属病院 看護部・企画情報部）
3. 熊本地震の経験から伝えたいこと ～災害に強いネットワークの構築に向けて～  
安達 美樹（熊本大学医学部附属病院）
4. 基幹災害拠点病院としての取り組みと課題  
山田 綾子（秋田大学医学部附属病院 看護部）

## D-2 歯科

### 歯科診療情報の標準化 ―いざというときの歯科情報―

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 10：35～12：05

会 場：D 会場（2F 有明）

オーガナイザー：鈴木 一郎（新潟大学医歯学総合病院 患者総合サポートセンター）

座 長：中山 秀樹（熊本大学医学部附属病院 歯科口腔外科）

現在、厚生労働省の班研究において、歯科レセプトコンピューターから得られる情報を活用して、治療経過を追うことや災害時身元確認の可能性につなげる歯科診療情報の標準化作業と実証事業が行われている。一方、がん診療や周術期医療における、医科歯科連携による治療効果の向上が明らかとなっており、歯科診療情報の標準化が地域での医科歯科連携に役立つとともに、地域等での万が一の災害時の情報連携にも役立つことが期待される。今回の歯科セッションでは、口腔診査情報標準コード仕様とその実証事業の現状を報告いただき、地域での連携、大規模病院内での応用について議論を深めて行きたい。

#### 1. 歯科診療情報の標準化について～口腔診査情報標準コードの活用と課題～

玉川 裕夫（大阪大学歯学部附属病院 医療情報室）

#### 2. 熊本県におけるがん医科歯科連携について

宇治 信博（熊本県歯科医師会 理事）

#### 3. 熊本地震における身元確認と歯科支援活動

牛島 隆（熊本県歯科医師会）

#### 4. 熊本大学病院での医科歯科連携の実際

吉田 遼司（熊本大学医学部附属病院 歯科口腔外科）

## D-3 薬剤

### 日常診療・災害医療におけるリスクマネジメント強化

#### ～各種情報の利活用と共有ツールの構築～

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 13：35～15：05

会 場：D 会場（2F 有明）

座長・オーガナイザー：齋藤 秀之（熊本大学医学部附属病院 薬剤部）

座 長：三浦 昌朋（秋田大学医学部附属病院 薬剤部）



近年、薬剤師業務は処方箋に基づいた調剤のみならず、病棟業務、退院後の地域連携、在宅医療への関与など多岐にわたる。これらの薬剤師業務を実践するうえで、医薬品情報のみならず、患者基本情報や服薬情報などの各種情報をタイムリーに収集・把握することが、医薬品適正使用への寄与という観点から非常に重要である。とりわけ平時の情報収集手段や共有連携を強化することは、患者個々に応じた医療行為の実践という点から非常に有用であり、このようなツールを積極的に導入・推進していくことが、災害時など緊急時の情報連携にもつながる。近年、医薬品適正使用を指向した取り組みとして、各種医薬品情報データベースの利活用や病院情報システムとの連動、お薬手帳の有効活用やトレーシングレポートを介した連携、地域医療ネットワークの導入など、様々な情報の利活用ならびに共有手段が各施設・地域間で取り入れられている。今回のセッションでは、各種情報を有効に利活用されている施設よりご発表いただき、平時ならびに災害時の情報入手・共有手段として、今後どのように考えて行けばよいかを検討していきたい。

1. 処方・注射オーダ時の他部門システムとの連動ならびに各種情報の利活用

遠原 大地（熊本大学医学部附属病院 薬剤部）

2. 検査値連動型の処方チェックシステムを用いた疑義照会の有用性

富田 猛（神戸大学医学部附属病院 薬剤部）

3. 新規医薬品情報一元管理・共有化システムを用いた病院薬剤師における医薬品情報の利用実態の解明

永田 健一郎（九州大学病院 薬剤部）

4. PMDA 医薬品副作用データベース検索システムを利用した災害時携行医薬品リストの作成

富田 淳子（香川大学医学部附属病院 薬剤部）

5. 滋賀県におけるカード型電子お薬手帳の現状とこれから

松田 雅史（滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部）

## D-4 検査

### 臨床検査部門からの情報発信と多職種連携

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 15：10～16：40

会 場：D会場（2F 有明）

オーガナイザー兼座長：末岡 榮三朗（佐賀大学医学部 臨床検査医学）

松井 啓隆（熊本大学大学院 生命科学部臨床病態解析学）

臨床検査部門からの情報は、診療に不可欠なものであり、質の高い検査データを迅速に提供することが強く求められている。そのデータの質は、臨床検査部門のみならず、多職種が関わり、多面的に保証されるものでなければならない（検査オーダーから採血準備、採血、測定、報告および結果の解釈に関するアドバイスまで）。更に、これらの臨床検査データは、地域における重要な診療情報の一つとして、医療施設間での共有が望まれている。本セッションでは、精度保証へと繋がる多職種連携システムや、地域医療における臨床検査データの活用の取り組みについて議論したい。

1. 熊大病院における RFID 技術を応用した検体情報統括管理システム (TRIPS) 導入経験と今後の課題  
眞部 正弘 (熊本大学医学部附属病院 中央検査部)

2. 災害時に機能する地域臨床検査ネットワーク構築に向けて  
～熊本地震災害を経験して～  
池田 勝義 (熊本保健科学大学 保健科学部)

3. 病院内外の連携において「検査情報」が意味するもの  
～検査情報室の役割とその変遷～  
岡崎 希美恵 (川崎医科大学附属病院 中央検査部)

4. 検査部門から発信する多職種連携や地域連携のための基盤づくり  
末岡 榮三朗 (佐賀大学医学部 臨床検査医学講座)



## 共催セミナー

---

### ランチョンセミナー1

エプソン販売（株）

#### インクジェットで実現する、病院の経営改善と業務効率化

日 時：平成31年1月31日（木） 12：20～13：20

会 場：A会場（3F 中岳）

司 会：河上 浩之（エプソン販売株式会社 ビジネス営業企画部）

システム更新においては、準備に多大な工数がかかるばかりか予算の問題もあり、周辺機器の見直しや選定は優先順位が決して高くないのが現状です。本セミナーではそのような状況の中、出力機器の見直しに着目された先生方にご発表いただきます。

鹿児島大学病院では、過去2回にわたるシステム更新時に、出力機器のメーカー統一をやめ、それぞれの現場にあった機器を選定され業務効率化を実現されました。その経緯と具体的な効果について、システム運用全体のお話を含めてお話いただきます。

大阪大学医学部附属病院では、外来診察室において慢性的な課題となっていた印刷の待ち時間を、インクジェットプリンターが解決できるのかについて、検証を行われました。その結果、どのような効果や課題があがったのかを、現場の声をまじえてお話いただきます。

#### 1. システム更新時における、プリンター見直しの重要性について

宇都 由美子（鹿児島大学病院 医療情報部 部長 副病院長（特命） 経営分析・広報担当）

#### 2. 医療現場におけるインクジェットプリンターの可能性について

～外来診察室における検証を経て～

谷口 達典（大阪大学大学院医学系研究科 バイオデザイン学共同研究講座）

### ランチョンセミナー2

アラクサラネットワークス（株）

#### 不正アクティビティとハッキングを監視して情報セキュリティを強固に守る実践的ノウハウ

日 時：平成31年1月31日（木） 12：20～13：20

会 場：D会場（2F 有明）

司 会：鈴木 伊知郎（アラクサラネットワークス株式会社 ネットワークシステム部）

#### 1. リモート保守ゲートウェイと院内 Wi-Fi 機器所在の監視試験

鳥飼 幸太（群馬大学医学部附属病院 システム統合センター 副センター長）

近年の情報セキュリティの考え方は「突破阻止」に加えて「被害拡大防止と迅速な復旧」が求められている。しかしながら、院内では2100台のスマートフォン、100台のタブレット等

を活用しており、リモートメンテナンスを8系統運用している。院内では操作者と操作端末が急激に増加しており、従来手法のみではセキュリティリスクの把握と低減に限界が生じつつある。「ネットワーク活動の可視化」と「不審なアクティビティ候補をいち早く検知する」手法は効率的に情報セキュリティを高め、「突破の瀬戸際」で迅速な感染制御策を講じる早期警戒システムとしての活用が強く期待される。本講演ではWLSを用いたリモートメンテナンスにおける不審アクセスの学習ならびにX線ポータブルの動線把握試験を事例として紹介し、その実用性について議論する機会としたい。

## 2. セキュリティの基本は現状把握から！

～インシデントリスクを軽減する最新の医療向けネットワークソリューション～

小林 春樹（アラクサラネットワークス株式会社）

患者の個人情報や医療記録といった多くの機密情報を扱っている医療機関では、ネットワークのセキュリティリスクをきちんと把握した上で、セキュリティ対策の強化を検討していくことが求められています。本セッションでは、ネットワークに潜むセキュリティリスクを見える化するための手法や、既設のネットワーク機器を入れ替えずにできるセキュリティ対策などを提案します。

※アラクサラネットワークスは、快適で安心して使えるネットワークを提供することで豊かな情報通信社会の実現をめざし、2004年にNECと日立が合弁設立した国内トップクラスのネットワーク製品メーカーです。

## ランチョンセミナー 3

(株) ダイコク・システム・サービス

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 12：20～13：20

会 場：C 会場（3F 杵島岳）

座 長：本多 正幸（長崎大学・医歯薬学総合研究科・医療情報学教授 /  
長崎大学病院・医療情報部長）

### 1. 高額薬剤時代の稼働額をどう解釈するか

－貢献利益算定による診療科とのコミュニケーション－

平木 秀輔（京都大学医学部附属病院 医療情報企画部 助教）

当院の病院執行部は、運営企画室を担当窓口として毎年1回、各診療科・部を対象としたカンファレンスを行い、当該科・部の要望を把握する機会として活用するとともに病院全体・当該部門の経営状態を議論する場としている。

各部門のパフォーマンスを測定する指標として、財務に関係する指標は大きなウェイトを占める。当院では古くは部署ごとの稼働額の変動を診療科に提示していたが、稼働額は必ずしも付加価値を表さないことから、近年は市販の原価計算ソフトウェアによって算出された診療原

価を稼働率とともに提示することにより、診療科とのコミュニケーションを図っていた。

しかしながら、固定費の配賦を伴う診療原価の計算は、部門スタッフ自身の創意工夫で介入できない要素を多く含むため、部門に対して必ずしも有用な情報ではなく、「収益性」について執行部側と違った意図で受け取られることがしばしば見受けられた。

そこで、会計情報を診療科に提供する意義に立ち返り、患者に直課できるコスト（薬剤費・診療材料費）のみを稼働額から控除した、貢献利益に相当する数値を「実質稼働額」という名称でフィードバックすることとし、本年度からカンファレンスに導入した。

薬剤費の変動が大きい昨今の情勢において、実質稼働額は診療科の「努力」をより正確に反映していると考えられる。本年のカンファレンスを通じて診療科側からの否定的な意見はみられず、運営企画室としては概ね受け入れられたと認識している。

本指標の算出において薬剤の実施情報と診療材料の費消に関する情報が不可欠となる。前者は病院情報システムから抽出可能であるが、後者は処置・手術の実施情報のみならず、物流システムデータの分析が欠かせない。今後は物流システムとの連携を深めることにより、事務担当者の負担を増やすことなくより精緻な貢献利益情報を得るための方策を検討してゆきたいと考えている。

## 2. 大学病院におけるロット管理運用のご紹介

中山 誠一（株式会社ダイコク・システム・サービス）

## ランチョンセミナー 4

（株）ファインデックス

### 臨床研究における医療情報システム利用の現状と問題点、今後のあるべき形について

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 12：20～13：20

会 場：B 会場（3F 烏帽子）

司 会：長谷川 裕明（株式会社ファインデックス）

ここ数年の IT 技術の進歩は益々目覚ましく、AI やブロックチェーン等日頃のニュースでも明らかのように先進のコンピュータ技術への期待が益々高まっており、その技術がもたらさずと想定される結果に大きな関心が寄せられてきております。医療情報の世界でも同様に日々蓄積される診療データを如何に安全に解析し、2次利用し、AI 等で活用出来るようにするかという観点で様々な視座から活動が活発になってきております。今回はそのデータ利用基盤の構築に関して取り組まれておられます最先端の先生方にその活動内容と問題点を分かり易く解説頂き、診療情報の 2 次活用に対する情報システムマネジメント側の考え方、対応方法につきましてご講演頂きます。皆さまの奮ってのご参加をお願い申し上げます。

### 1. データを的確に集め、管理する。キュレーションシステムの在り方について

杉山 治（京都大学医学部附属病院 先端医療・生活習慣病研究センター 特定講師）

昨年から今年にかけて様々なプロジェクトで AI に関する教師データ収集事業が盛んになってきております。データを的確に収集するために院内で何を調整すべきか？安全に管理するセンターへデータを送信するために心がけなければいけないことは何かを解説します。調整しなければいけないことのポイントをしっかり理解し、IT 管理者の立場から恐れずに事業に協力して頂きたいと考えます。

## 2. データをオンデマンドで収集するためには

田中 勝弥（東京大学医学部附属病院 企画情報運営部 講師）

昨今行われている臨床研究事業は、データセンターに莫大な量のデータを集めそれを解析していくモデルである。これはプロジェクトを進める上で大きなコストと時間をかけないと実現するのが難しいのが現状である。新しい知見を見つけ出すために多大なコストは止むを得ないところではあるが、極力コストも時間もかけずにデータを収集する仕組みを提供することが日本の医療において喫緊の課題と考えます。本講演ではどのようなモデルがそれを実現可能とするかについて研究成果を報告します。

## スイーツセミナー

(株) イードクトル

### これからの利用者認証を考える

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 15：15～16：10

会 場：B 会場（3F 烏帽子）

演 者：山下 芳範（福井大学医学部附属病院 医療情報部 副部長 / 准教授）

鶴田 博信（熊本大学医学部附属病院 医事課 医療情報担当 係長）

多くの情報システムでは、サーバー攻撃への対応として利用者認証の強化が行われてきている。医療情報システムでも、患者の病歴という個人情報保護法上も機微な情報としての管理が求められており、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」でも、データアクセスの記録とともに、利用者管理も求められている。最近では、スマホの OS やパソコンの OS でも、パスワードを使わない方法へのシフトが始まり、生体情報や IC カード等を使った多要素・多経路認証が広がりつつある。

今回、大会の開催校でも利用している生体認証を事例を紹介するとともに、本大会での利用例についても紹介する。また、認証を正しく実施するためには、何を考慮することが重要でどのようなアプローチが必要かも考察する。

これからの多要素多経路認証の技術を実際の医療情報システムに入れて活用すべきかという面を考えるために、どのような仕組みになっているかや、運用のためのポイントとなる要素についても考えてみる。これからの方向としては ID・パスワードを使わない方向にあるため、認証システムとしての方向や認証のためのインフラの活用方法などコストメリットも意識しながら何をすべきかを紹介する。

## 総会・閉会式

---

日 時：平成31年2月1日（金） 10：05～11：30  
会 場：A会場（3F 阿蘇）

## 各種委員会

---

### 医療情報部長会・幹事会

日 時：平成31年1月30日（水） 14：00～15：00  
会 場：熊本県医師会館 6F 大会議室

### 医療情報部長会

日 時：平成31年1月30日（水） 15：00～17：00  
会 場：熊本県医師会館 6F 大会議室

### UMIN 小委員会・事務

日 時：平成31年1月31日（木） 9：00～10：00  
会 場：ホテルメルパルク熊本 B会場 3F 烏帽子

### UMIN 小委員会・薬剤

日 時：平成31年1月31日（木） 10：05～11：05  
会 場：ホテルメルパルク熊本 B会場 3F 烏帽子

### 診療情報管理士連絡会

日 時：平成31年1月31日（木） 11：10～12：10  
会 場：ホテルメルパルク熊本 B会場 3F 烏帽子

### UMIN 幹事会 / 協議会

日 時：平成31年1月31日（木） 16：45～17：45  
会 場：ホテルメルパルク熊本 D会場 2F 有明

### UMIN 協議会・総会

日 時：平成31年2月1日（金） 11：30～12：00  
会 場：ホテルメルパルク熊本 A会場 3F 阿蘇

### 運営委員会

日 時：平成31年2月1日（金） 12：00～13：00  
会 場：ホテルメルパルク熊本 2F 鈴



# ポスター発表

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 9：00～16：00

立 会：平成 31 年 1 月 31 日（木） 16：00～17：30

会 場：2F 立田・4F ロビー

## 1 看護

- P1-01 看護記録テンプレートの形式的監査  
山口 真由美（佐賀大学医学部附属病院 看護部）
- P1-02 DWH から抽出した看護指示マスタの活用状況  
南里 美貴（佐賀大学医学部附属病院）
- P1-03 認証システムからのインシデントの発生状況  
～採血管認証システム稼働後の調査～  
公文 孝子（佐賀大学医学部附属病院 看護部）
- P1-04 処方カレンダー導入に対する取り組み  
松前 有香（香川大学医学部附属病院 看護部 南病棟 6 階）
- P1-05 重症度、医療・看護必要度Ⅱへの移行の取り組み  
～A 項目実践記録と処置実施登録の連携～  
村田 てるよ（三重大学医学部附属病院 看護部（医療情報））
- P1-06 島根大学医学部附属病院における看護必要度Ⅰの確保と精度向上への取り組み  
山崎 祐子（島根大学医学部附属病院 看護部（医療情報担当））
- P1-07 おむつ定額サービス導入への取り組み～適切な排泄ケアに取り組む～  
鈴木 樹美（東京大学医学部附属病院 看護部 企画室／情報担当）
- P1-08 看護部災害対策リンクナース会の取り組み  
加賀谷 晶子（秋田大学医学部附属病院）
- P1-09 重症度、医療・看護必要度算定精度向上を目指した取り組み  
塚田 隆太（秋田大学医学部附属病院 看護部）
- P1-10 重症度、医療・看護必要度の評価精度の向上を目指した取り組み  
～監査方法の工夫～  
小松 千賀子（秋田大学医学部附属病院）
- P1-11 「電子カルテの使用方法」における新採用者へのオリエンテーション方法の検討  
真鍋 恵美（香川大学医学部附属病院 看護部 東病棟 3 階）

- P1-12 心電図モニターの有効活用による重症度、医療・看護必要度の適正評価に向けた取り組み  
柏崎 由美（富山大学附属病院 看護部）
- P1-13 一般病棟における定期カンファレンス定着への取り組み  
竹原 玲子（熊本大学医学部附属病院）
- P1-14 内服実施確定率改善に向けた取り組み  
増本 陽子（熊本大学医学部附属病院）
- P1-15 電子カルテの汎用ワークシート機能を用いた情報収集業務の効率化の試み  
～情報収集時間短縮の業務改善のため取り組みと課題～  
篠原 弘枝（信州大学医学部附属病院）
- P1-16 新規ワークシートの活用は業務にどう影響を与えたか  
～新規ワークシートを使用して部署でどう改善につなげるか～  
松澤 剛毅（信州大学医学部附属病院）
- P1-17 Excelにてペーパーレス化した業務量調査に関する評価  
内田 緑（信州大学医学部附属病院）
- P1-18 重症度、医療・看護必要度に関する記録ツールの整備  
太田 有香（東北大学病院看護部）
- P1-19 産婦人科病棟におけるMSWの介入の実態  
牟田口 朋子（佐賀大学医学部附属病院 看護部）
- P1-20 処置行為を実施記録するための取り組み～コスト算定につなげるために～  
久保 千夏（旭川医科大学病院）
- P1-21 看護部新入職員への診療情報システム使用研修の実践報告  
齋藤 凡（東京大学医学部附属病院 看護部情報担当）
- P1-22 当院における看護診断使用実績  
～使用頻度の高い看護診断ラベルとスタンダードケアの比較～  
川本 宏行（熊本大学医学部附属病院 西病棟4階）
- P1-23 業務ワークシート活用の現状と今後の課題  
～業務ワークシート活用状況アンケート結果からみえてきたもの～  
工藤 万由佳（熊本大学医学部附属病院 東病棟9階）
- P1-24 電子カルテにおける看護情報の共有について  
～看護データベースと退院支援関連のテンプレートを通して～  
西田 菜都子（京都大学医学部附属病院 看護部）

- P1-25 医療安全の向上にむけたシステムの改修および運用周知の取り組み  
～合同カンファレンスでのインシデントレポートの検討を通して～  
西口 真由美（長崎大学病院）
- P1-26 看護記録・看護過程の展開における継続教育  
岩佐 文代（滋賀医科大学医学部附属病院 看護部）
- P1-27 看護基準の監査システム構築と運用後の課題  
江副 智美（長崎大学病院）
- P1-28 切れ目のない看護の継続に向けた情報連携 ～長崎市近郊の看護職間で使用する  
看護介護連携シートの構築とその運用に向けた取り組み～  
岡田 みずほ（長崎大学病院）
- P1-29 A医科大学病院 10階東病棟における脳卒中患者の動向  
本間 敦（旭川医科大病院 10階東ナースステーション）
- P1-30 看護記録の質向上に向けた質的監査の取り組み  
渡邊 玲子（熊本大学医学部附属病院 看護部）

## 2 診療情報管理

- P2-01 診療情報管理士のDPCコーディング介入により見えたもの  
加藤 真嗣（浜松医科大学医学部附属病院 医事課）
- P2-02 大学病院におけるカルテ開示の問題点とその解決に向けた取り組み  
橋本 麻紀子（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）
- P2-03 自動操作等による多システム間における診療情報管理業務の効率化  
山本 俊成（琉球大学医学部附属病院 診療情報管理センター）
- P2-04 「病院勤務医の負担軽減サポート」に関する診療情報業務掛の取り組み  
武本 基嗣（京都大学医学部附属病院 医務課）
- P2-05 カルテ記載標準化に向けて～役立つカルテ～  
井上 麻里子（福井大学医学部附属病院 診療情報管理部）
- P2-06 説明記録の記載率向上への取り組み  
高日 律子（熊本大学医学部附属病院 医事課中央病歴室）
- P2-07 画像・病理検査結果未確認「<sup>ゼロ</sup>0」を目指して  
大中 希代佳（熊本大学医学部附属病院 医事課 中央病歴室）



- P2-08 紙文書の電子化作業における点検  
霍田 有希子（熊本大学医学部附属病院 医事課中央病歴室）
- P2-09 死亡診断書（死体検案書）電子化導入までの取り組みと問題点  
～診療録管理と医療安全の協働～  
藤谷 香澄（岐阜大学医学部附属病院）
- P2-10 課内連携による適正な DPC コーディング  
中村 彩乃（福井大学医学部附属病院 医療サービス課）
- P2-11 災害訓練に対するロジ（情報系）の配置とシステムの整備  
貝塚 伴子（千葉大学医学部附属病院）
- P2-12 診療記録の量的監査業務におけるシステム利用  
不破 由美（三重大学医学部附属病院 医事課 診療管理係）

### 3 病院マネジメント（事務）

- P3-01 DMAT 隊員が考える診療報酬改定対応～CSSATTT を活用した事務作業～  
布目 久夫（信州大学医学部附属病院）
- P3-02 京都大学医学部附属病院資格管理システムの取組事例  
～専門医・認定医等資格情報の一元管理に向けて～  
松浦 和也（京都大学医学部附属病院 総務課総務掛）
- P3-03 コスト削減に向けた多角的なアプローチ  
～できることは何でもやります！！「滋賀医大スピリット」～  
谷口 直暉（国立大学法人滋賀医科大学会計課病院 経営企画室病院調達係）
- P3-04 重症度、医療・看護必要度精度向上のための取り組み～事務職員が出来ること～  
吉田 留美（福井大学病院部医療サービス課）
- P3-05 ホームページリニューアルの実行について  
小林 鉄平（高知大学医学部附属病院 病院事務部医事課診療情報管理係）
- P3-06 入院レセプト翌月返戻保留額0円を継続中！  
～ISO9001 の手法を取り入れた改善事例～  
花岡 昌数（京都大学医学部附属病院 医務課 入院診療報酬掛）
- P3-07 外来会計待ち時間短縮の取り組み～若手プロジェクトチームの活動～  
西井 美歩（京都大学医学部附属病院 医務課）

- P3-08 輸液ルート切り替えの経緯と導入後の状況について  
天弘 藍子（国立大学法人浜松医科大学 病院経営支援課 病院物流管理係）
- P3-09 東大病院患者サロンの取り組み  
越智 由貴（東京大学医学部附属病院）
- P3-10 第9回国立大学附属病院係長クラス勉強会報告  
～グループワークおよびプレゼンテーションからの気づき～  
北清 義之（信州大学医学部附属病院 医事課入院係）
- P3-11 会計待ち時間削減に伴う患者満足度向上について  
佐藤 佳奈子（東北大学病院 医療情報運用管理係）
- P3-12 病院再開発先行病院における財務指標・経営指標から見た  
当院の今後のK P Iについて  
土井 泰裕（山口大学財務部財務課決算・資産係）
- P3-13 経営戦略企画室の取り組み  
佐藤 恵美（秋田大学医学系研究科・医学部企画管理課）
- P3-14 京都大学病院における医師事務作業補助者のマネジメント  
～一般的な考え方から視点を変えて～  
前島 耕志（京都大学医学部附属病院 医務課）
- P3-15 国立大学附属病院による「ベッド・リサイクル事業」の構築について  
山口 拳史（東京大学医学部附属病院 管理課）
- P3-16 第12回国立大学附属病院若手職員勉強会実施報告  
Come on! 病院ベイビー 1年後に差がつくマニフェスト  
島 宏幸（東京大学医学部附属病院）
- P3-17 入院情報可視化ツールによる病床稼働率向上への取り組み  
山口 永真（岐阜大学医学部附属病院 経営企画課）
- P3-18 地理情報システム（GIS）を用いた入院患者の分析  
～京都大学医学部附属病院の事例～  
杉野 剛史（京都大学医学部附属病院 経営管理課）
- P3-19 重症度、医療・看護必要度Ⅱへの切り替え  
～病院執行部の意思決定を支援するHOMAS2の活用～  
小谷 将司（京都大学医学部附属病院 経営管理課）
- P3-20 HOMAS2を利用したデータをいかに医師に伝えるか  
加藤 秀紀（弘前大学医学部附属病院 経営企画課 経営分析担当）

- P3-21 特定保険医療材料の医事材料コードを点数マスタに一括登録する仕組みの構築  
園田 浩富（大分大学医学部・病院事務部医事課）
- P3-22 平成 30 年度 HOMAS2 の取り組みについて  
明平 和久（東京大学医学部附属病院 経営戦略課経営企画チーム）
- P3-23 東京大学医学部附属病院における経営戦略会議の設置について  
竹本 浩伸（東京大学医学部附属病院 経営戦略課経営企画チーム）
- P3-24 東京大学医学部附属病院における経営戦略会議の活動について  
細川 敬貴（東京大学医学部附属病院 経営戦略課経営企画チーム）
- P3-25 熊本大学医学部附属病院 BCP について  
岩田 誠二（熊本大学医学部附属病院 事務部経理課施設管理室）

#### 4 病院情報システム

- P4-01 外来患者呼び出しシステムの利用状況について  
～システム更新前後の関連データを比較して～  
大場 浩明（秋田大学医学部附属病院）
- P4-02 BCP としての病院情報システムの停電対応  
園田 浩富（大分大学医学部・病院事務部医事課）
- P4-03 生体情報モニター関連記録作成促進機能の開発と工夫点  
岡本 有希（三重大学医学部附属病院 医事課 医療情報管理係）
- P4-04 コンサルタントを活用した病院情報管理システムの更新について  
～病院情報管理システム調達への競争原理の導入とその課題～  
白木 康浩（信州大学医学部附属病院）
- P4-05 重症度、医療・看護必要度評価の精度向上の取り組み  
～電子カルテの機能を活用して～  
湯浅 由佳（宮崎大学医学部附属病院 看護部）
- P4-06 室料加算・病名に連携した SOFA・pSOFA スコアの入力アラート  
西川真介（三重大学医学部附属病院 医事課 診療管理係）
- P4-07 レガシーシステムデータの効率的活用～テキストデータによる情報保管と活用～  
齋藤 英雄（愛媛大学医学部医事課）
- P4-08 患者満足度向上のためのオーダ履歴を用いた待ち時間分析  
木村 知広（鳥根大学医学部医療サービス課）

- P4-09 麻薬管理システム導入後の問題点とその改善策  
岡本 明大（三重大学医学部附属病院 薬剤部）
- P4-10 マスタリリース申請ツールによるマスタ更新時の申請・リリース作業の改善  
佐野 龍樹（三重大学医学部附属病院 医事課 医療情報管理係）
- P4-11 通院治療室ベッド管理ツール ～基幹ネットワーク障害時でも最小セグメントで機能し続けるコミュニケーションツール～  
船田 徹（信州大学）
- P4-12 HOMAS2 機能強化 WG の取組について  
～ HOMAS2 を用いた重症度、医療・看護必要度分析システムの開発～  
小谷 将司（京都大学医学部附属病院 経営管理課）
- P4-13 病棟常備薬と指示簿オーダーの連携とマスタメンテナンス性の向上  
松村 朋絵（三重大学医学部附属病院 医療情報管理部）
- P4-14 患者説明テンプレート作成とその使用状況（第一報）  
～患者に何らかのアクションを起こしたかどうかを把握する～  
片口 治幸（富山大学附属病院 医療情報部）
- P4-15 院外薬剤師による疑義照会内容の電子カルテ自動登録機能の実装  
～院外連携システムによる処方せん疑義照会関連業務の効率化～  
本多 立（三重大学医学部附属病院 医療情報管理部）
- P4-16 検査レポート未読率逡減に向けての取り組み  
山下 龍士（岐阜大学医学部附属病院 経営企画課 医療情報係）
- P4-17 周術期医療を可視化する DWH の開発と導入  
～手術医療の質向上と医療安全のために～  
長瀬 清（岐阜大学医学部附属病院 手術部）
- P4-18 チームワーク向上と多職種協働に必要なツールを考える  
～ファイル共有システムの改善～  
中野 まどか（香川大学医学部附属病院 医療情報部）
- P4-19 ファイルサーバの利用状況調査と容量削減方法の検討  
山本 祐弥（浜松医科大学）
- P4-20 外部ユーザが利用する光回線の統合と整理  
伊藤 和哉（東北大学）
- P4-21 手術映像画像統括システム導入における 2 種類の動画配信環境構築の取組み  
田山 智幸（東北大学病院 医療情報室）

- P4-22 医療機器の HIS ネットワーク接続基準の策定と運用  
谷口 陽平（京都大学医学部附属病院 経営管理課）
- P4-23 改正個人情報保護法、次世代医療基盤法施行下における医療機関の責務  
～信州大学医学部附属病院が経験した情報管理に関するインシデント事案～  
浜野 英明（信州大学医学部附属病院 医療情報部）
- P4-24 業務用 NAS（Network Attached Storage）の統合管理化  
諸林 亮太（千葉大学医学部附属病院 経営企画課 システム運用係）

## 5 地域連携

- P5-01 ICT ネットワークによる搬送前トリアージについて  
田浦 直太（長崎大学病院 医療情報部）
- P5-02 大学病院主導の県全域地域医療連携システム構築における課題  
廣瀬 隼（徳島大学病院 病院情報センター）
- P5-03 国立大学病院における二次医療圏内外の紹介入院患者数の現状について  
守野 隆寛（東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター）
- P5-04 ICT を利用した災害対策本部ビデオモニタリングシステム  
～平時から利用している情報の災害時での応用について～  
下村 剛（大分大学医学部附属病院 医療情報部）
- P5-05 当院における虐待予防活動、地域との連携について  
前田 英武（高知大学医学部附属病院 地域連携室）

## 6 放射線・医用画像

- P6-01 PACS のデータ量増加への対応方法について～信州大学医学部附属病院の場合～  
浜野英明（信州大学医学部附属病院 医療情報部）
- P6-02 造影 CT 検査におけるデジタルペーパーを用いた問診・同意書類の取得・確認  
小澤聡（京都大学医学部附属病院 放射線部）
- P6-03 BI ツールを活用した放射線検査統計の自動化  
中野まどか（香川大学医学部附属病院 医療情報部）
- P6-04 Web 型 CD エクスポート導入の経験～導入前後の部門間運用調整について～  
照井正信（秋田大学医学部附属病院 中央放射線部）

## 7 薬剤

- P7-01 病院共通指示システムの変更に伴う睡眠薬の病棟常備薬変更の取り組み  
水谷 栄梨（三重大学医学部附属病院）
- P7-02 院内製剤業務の情報化・円滑化 ～院内製剤システムの構築～  
石井 晃（千葉大学医学部附属病院 薬剤部）
- P7-03 新規採用医薬品に対して医薬品情報管理室が実施している情報連携マネジメント  
森木 邦明（鳥取大学医学部附属病院 薬剤部）
- P7-04 配置薬オーダ時の使用場所入力システムの導入における  
業務改善および配置薬の適正化  
川渕 有佳（長崎大学病院 薬剤部 薬品情報室）
- P7-05 “初期症状”に基づく副作用モニタリング方法の構築  
岡野 智史（山口大学医学部附属病院 薬剤部）

## 8 臨床研究・治験

- P8-01 CLISTA! SEARCH を効果的に活用した治験・臨床研究支援  
上杉 啓子（藤田医科大学 研究支援推進センター 学術研究支援推進施設）
- P8-02 治験向け画像メディア作成システムの構築  
中野 まどか（香川大学医学部附属病院 医療情報部）

## 9 検査

- P9-01 MEDIS の JLAC コード運用支援による作業シートの作成について  
川下 隆二（岡山大学病院 医療技術部）



# 協賛／協力企業・団体

敬称略・順不同

以下の企業・団体より、多大な御支援を賜りました。深く感謝いたします。

## ■共催セミナー

アラクサラネットワークス株式会社  
株式会社イードクトル  
エプソン販売株式会社  
株式会社ファインデックス  
株式会社ダイコク・システム・サービス

## ■企業展示

株式会社医用工学研究所  
株式会社ホギメディカル  
株式会社NOBORI  
東洋羽毛九州販売株式会社 熊本営業所  
株式会社NSD ビジネスイノベーション  
株式会社ワイズ・リーディング  
アラクサラネットワークス株式会社  
コニカミノルタ株式会社  
株式会社ソリトンシステムズ  
株式会社DynaXT  
株式会社キシヤ  
ソニービジネスソリューション株式会社  
公益財団法人飯塚研究開発機構  
株式会社イシダ  
ニプロ株式会社  
株式会社ファインデックス  
株式会社アルム  
エプソン販売株式会社  
京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社  
クリックテック・ジャパン株式会社  
ヴェイムウェア株式会社  
リコージャパン株式会社  
メディア株式会社  
Qualcomm Life  
株式会社沖データ

## ■展示ルーム

キヤノンメディカルシステムズ株式会社  
富士通株式会社  
GEヘルスケアジャパン株式会社

## ■広告

株式会社トーショー  
キヤノンメディカルシステムズ株式会社  
横河医療ソリューションズ株式会社  
株式会社コム・アンド・コム  
テルモ株式会社  
株式会社くまもと健康支援研究所  
カーリーナシステム株式会社  
株式会社ビッグバン  
正晃株式会社

## ■バナー広告

株式会社医用工学研究所

## ■寄附

一般財団法人 恵和会  
ソフトバンク株式会社  
株式会社電算  
山下医科機器株式会社 熊本支社  
株式会社ビーブリッジ

## ■顔認証登録システム

株式会社イードクトル  
グローリー株式会社

## ■抄録プリントサービス

エプソン販売株式会社  
京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社

## ■ポスタープリントサービス

富士ゼロックス熊本株式会社